

THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成7年7月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN

〒104 東京都中央区築地2-8-9 Tel (3541)4411(代)

平成7年7月号 No. 428

'95 Q盤サマーキャンペーン始まる！

当協会の需要拡大事業の一環として昨年夏から始まりましたQ盤キャンペーンは、この夏も、需要拡大期にあわせて、「'95 Q盤サマーキャンペーン」として現在大々的に展開されています。

今回のキャンペーンは、95年8月21日までに発売になるQ盤商品すべてを対象として企画されており、以下のオリジナル・キャンペーン・ツールを作成しました。

・「Q盤音のカタログ」
Q盤を耳から認知していただくために、Q盤の中から厳選された100曲を1曲90秒以内で収録した特別制作のCDサンプル。

・「チラシ」
95年12月19日から95年8月21日までに発売になったQ盤四二三点と「音のカタログ」100曲に収録された曲の入ったQ盤を紹介。
・「Q盤大辞典(95冬版)」
昨冬作成、配布した「Q盤大辞典(95冬版)」を増刷。
この3点を販売店用キットとして費用一部負担で希望店には6月下旬にお届けし、



販売店ではコーナー設置等の店頭展開を進めています。
宣伝については、次の新聞各紙に広告を掲載し、さらに、放送や雑誌等でも強力にパブリシティを展開します。

・読売新聞朝刊(東京、大阪)
・朝日新聞夕刊(東京、大阪)
・東京新聞(東京)
・北海道新聞(北海道)
・河北新報(東北)
・中日新聞(中部)
・中国新聞(中国)
・西日本新聞(九州)
なお、今回のキャンペーンのユー

ザープロモーションの目玉施策として、新聞広告上で「Q盤 音のカタログ」100曲を先着1万名様に、ユーザー・プレゼントとして、梱包・発送手数料一、〇〇〇円をお客様のご負担でお送りすることの案内をしております。

廃盤セール

概要決定！

「廃盤セール」プロジェクトでは、第4回廃盤セールの概要を実施することを決定しました。

・セール名称

「レコードファン感謝祭'95」
— 廃盤特別謝恩セール —

・実施日時

10月21日(土)、22日(日)
午前10時～午後5時

・実施会場

東京タワーボウリングセンター
— 1F 催事会場

・対象商品

会員各社廃盤商品
(レコード、ビデオ)

・販売価格

定価の70%引き

今年も昨年同様、新聞・雑誌への広告並びにダイレクトメール等を実施し、広くレコードファンに参加を呼び掛けることにしています。

文部大臣、関係国会議員に対する「再販制度」存続に関する陳情活動実施

当協会では、公正取引委員会による著作物に対する再販制度見直しの動向を受けて、音楽用CD、レコードの再販制度存続に向けて活発な活動を続けていますが、5月31日に新進党関連国会議員に対して懇談会という形で陳情を行い、6月7日には公明党参議院議員、また同日に与謝野文部大臣に、6月12日には森自民党幹事長にお会いし、陳情を行いました。6月7日の与謝野文部大臣との懇談に際しては、当協会より松尾会長、乙骨理事、木村常務理事が参加し、日本レコード商業組合より矢島理事長が参加し陳情を行いました。また、6月12日の自民党、森幹事長との懇談に際しては、当協会より松尾会長、新田副会長、乙骨理事、木村常務理事が参加し、日本レコード商業組合より矢島理事長が参加し陳情を行いました。

当協会では今回、新たに消費者利益の観点から再販制度の必要性を訴える「陳情書」を作成しましたので以下に全文をご紹介します。

「レコードの表示に関するガイドライン」の発行について

PL法施行に先駆け、技術委員会では、消費者専門部会にワーキンググループを特設し、レコードの表示事項・方法の見直しを行い、「レコードの表示に関するガイドライン」としてとりまとめました。

PL法では、「取扱説明書や注意表示に起因する事故」も「製造物責任」とみなされます。そこ

陳情書

社団法人 日本レコード協会

私共は、現在CD（コンパクト・ディスク）によって代表される商業用レコード（以下レコードという）の再販制度の廃止に強い反対を表明し、同制度の存続についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

一、レコードの再販制度は消費者の利益を守っています。

(一)レコードの再販制度は、世界最大の音楽財産を消費者に提供しています。

昭和二十八年、独占禁止法の一部改正が行われ、著作物商品の再販制度が認められるようになりましたが、それは、書籍やレコード等の趣味性の強い文化的商品については、価格の高低もさることながら、商品の選択の幅の広さが消費者にとって最大の利益と考えられ、その実現を確保するためでありました。

日本のレコード産業は再販制度のもと、日本の大衆音楽、伝統芸能から世界各国の最新音楽、民俗音楽まで世界で最も多くの音楽作品を消費者に提供し、消費者の多種多様な文化的欲求に応え、文化水準の維持向上に努めてまいりました。

日本で一年間に発売される音楽作品の種類は、世界最大の音楽市場、米国の三倍にもなります。今や全世界でも、日本でしか入手できない音楽作品も珍しくありません。

(二)過去三年間の「廃盤セール」の実績が、消費者の本当のニーズを表わしています。

(注)日本レコード協会の会員社は、公正取引委員会のご指導により、過去三年間にわたり、廃盤となったレコード、CDについて定価の七割引で販売する「廃盤セール」を実施いたしました。出品したレコードの五分の四が売れ残り廃棄処分されました。

レコード、CD等の商品に対し、消費者が真に求めているのは、価格の安さもさることながら、本当に自分の心を満たしてくれるCDを見つけること、そして、それを可能にする音楽作品の幅の広さなのです。

といっても、レコード会社は決してレコードの価格の引き下げに手をこまねいている訳ではありません。

後述の通り、レンタルレコード等との対抗等、厳しい環境の下にあつて、各社共コスト低減の企業努力により、三十年前と殆ど同じ販売価格を保っており、文字通り、物価の優等生としての立場を維持しています。

(三)レコードの再販撤廃は文化の地域格差を拡大します。

レコードの再販制度が撤廃されると、他の商品で、総合的に利益をあげられる大型商業施設でのレコードの安売りやオトリ販売により自由競争の限界を越えた過当競争に陥り、レコード店の大多数を占める中小レコード店の多くは、廃業を余儀なくされ、消費者にとって手近にレコードを購入する機会を失うこととなります。

で、「製造物責任」に直接・間接的に関わる事柄を整理、まとめたものが、今回のこのガイドラインです。

本ガイドラインの表示事項・方法については、今後の動向を見定めた上で、順次日本レコード協会規格（RIS）として制定していく予定です。

95年度文化庁著作権セミナー開催

毎年恒例の文化庁・各地教育委員会共催の著作権セミナーは、今年も全国7地区において開催されますが、今年度からは、当協会も、全地域に講師を派遣することになりました。

これは、従来、同じ著作隣接権者ということで、社団法人日本芸能実演家団体と分担して参加してきましたが、両団体は「実演」と「レコード」という異なる分野の団体であるため、それぞれの団体が全地区で講演をすることが望ましいと、文化庁が判断したことによるものです。

尚、各地区のセミナーは以下のとおりです。受講を希望される場合は、各地の教育委員会にご照会下さい。

北海道東北地区	青森	10月12日（木）	13日（金）
関東甲信越静岡地区	長野	7月20日（木）	21日（金）
東海北陸地区	岐阜	8月17日（木）	18日（金）
近畿地区	京都	7月13日（木）	14日（金）
中国地区	島根	8月3日（木）	4日（金）
四国地区	徳島	2月8日（木）	9日（金）
九州地区	熊本	9月7日（木）	8日（金）

殊に地方の消費者ほど不利となり、文化の地域格差に拍車をかけることとなります。

昨年十一月二十五日に、超党派の国会議員立法で公布施行された『音楽文化の振興のための学習環境の整備等に関する法律』の制定主旨をより生かすためにも、再販制度の存続により幅広い音楽商品の提供と文化の地域格差を無くすことが最も大切なことと思量いたします。

二、日本のレコード市場は、制作、販売とも開かれた自由な市場を形成しています。

当協会会員社三十社中、九社が外資系の会社です。そしてかなりの売上規模を持った会社がこの三年間で五社誕生しました。一方市場はタワーレコード、HMV、ヴァージン・メガストアーズ等の外資系の大形店舗が急増し昨年末時点で三十八店に達し、今年中には更に十五店オープンする予定です。輸入盤の枚数は、この十年間で十一倍に伸びています。

このように、我国のレコード業界は、制作、流通、貿易の各分野にわたり、最も開かれた市場になつていきます。

三、日本のレコード業界は、貸レコード業との共存という世界でも最も厳しい環境の中に置かれています。

日本のレコード業界は、アメリカ、ヨーロッパ等著作権制度の進んだ国では不正な事業としてその出現が拒まれていた貸レコード業との共存を強いられてきています。

一方消費者は、同じレコードを購入してもレンタルで利用してもよく、最も恵まれた環境にあります。

四、レコードの再販制度は、米・欧諸国から問題を指摘されたことは一度もありません。

日本のレコード市場は、世界的に見ても米国に次いで世界第二位の重要な位置を占め、再販制度のもと公正な市場秩序を維持し、世界の一員としての役割を担っています。

また、かつて米・欧諸国から、日本のレコード市場に関し規制緩和の対象として問題提起されたことは一度もありません。

五、レコードは書籍などと同じ著作物です。

現在レコードは、独占禁止法上、書籍や新聞と同じく法定再販著作物として認められています。その流通や商慣習においても書籍と何ら変わることはありません。特に最近では、カセット文庫やCDブック、電子ブックと呼ばれる商品も出現し、形態すら同じ物が流通しています。

今後ともレコードだけが、書籍、新聞等と差別されることのないよう要望いたします。

以上のような観点からレコードの再販制度の廃止に反対し、法改正が検討される場合には、私共の要望を反映していただきたく、お願い申し上げます。

平成七年五月十九日

社団法人 日本レコード協会
会長 松尾 修 吾

第5回国際レコード技術会議の開催

IFPI(国際レコード産業連盟) RIAA(米国レコード協会)及びRIAJ(日本レコード協会)との「第5回国際レコード技術会議」は、去る5月10日、11日の二日間の日程でロサンゼルス「フォー・シーズン・ホテル」において、RIAAの主催で開催されました。

この技術会議には、主催者であるRIAAから9名、IFPIから5名、RIAJからは高野技術委員長を含め6名、計20名が参加しました。この技術会議では、予め準備された「12項目」議題について活発な討議と情報交換が行われました。

この会議も本年度5回目を迎え、レコード産業が抱える多くの技術的な問題に対する共通の理解と認識が一層深まりました。

特に、今回の会議での重要テーマであった「CD-Rによる海賊行為を防止するための技術対策」(第二段階の措置)については、IFPI/RIAA/RIAJが共同してレコード産業としての具体的な対策案を取りまとめ、この実現に向けて積極的に取り組んで行くことになりました。

また、これからのレコード産業の

発展に必要な「CDの高付加価値化」の実現、現在のUマチック・テープに替わる「CD-Rマスタ」利用のための技術的問題、将来的な課題である「アーカイビング・システム」など、レコード産業に共通する専門技術的な問題については、3団体の代表によるエキスパート・グループで討議していくこととなりました。この会議の主な討議内容は、次のとおりです。

「第一日会議」

一、CD-Rの海賊盤防止対策

「CD-Rによる海賊行為を防止するための技術的対策(第二段階の措置)」に関するRIAA及びRIAJ提案に対する協議。
二、CD製造用CD-Rマスタ標準フォーマット

現在のUマチック・テープに替わってCD-Rをマスタに利用するときの技術的問題点についての意見交換、標準化する場合の技術的問題点などについての討議。
三、音楽パッケージに関するアンケート調査結果概要報告

一ト調査結果概要報告

昨年10月、日本オーディオ協会と共同して、オーディオ・フェア来場者を対象に実施した「音楽パ

ッケージに関するアンケート」の調査結果概要についてのRIAJ報告と意見交換。

四、CDの高付加価値化

①「CDプラス」を含む「ミックスマード・ディスク」に関する米国の動向についてのRIAA報告と意見交換。
②「CDテキスト(仮称)」に関するRIAJ提案と、これに対する協議。
③DVDによる「高密度CD」に関する情報交換。

五、電子的音楽供給システム

①英国の事例による欧州の動向についてのIFPI報告。
②WWWのデモと米国の動向についてのRIAA報告。
③「ニューメディア・プロジェクト」における活動状況についてのRIAJ報告。

「第二日会議」

六、アーカイビング・システム

「アーカイビング・システム」についてのドイツレコード協会の提案と意見交換。

七、IEC 958規格改正動向

IEC(国際標準化機構)における「デジタル・オーディオ・インタフェース規格」の改正動向報告及び今後のレコード産業としての取組方に関するRIAJ提案。
八、SIDコードの実施状況

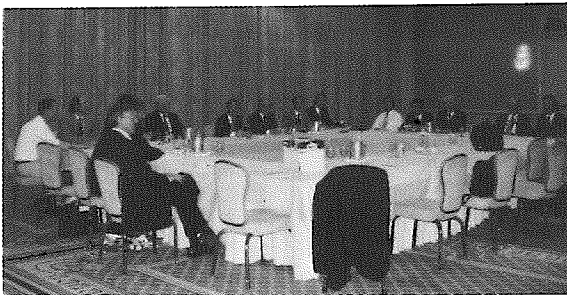
①国際的なSIDコードの実施状況報告、SIDコードの偽造を防止のための実施仕様追加案についてのIFPI提案。
②日本におけるSIDコードの実施状況及び普及活動についてのRIAJ報告。

九、ISRCの実施状況

①国内ISRC管理機関の設置状況、IFPIにおけるデータベースの構築、欧州における普及活動に関するISRCの報告。
②米国レコード会社における実施状況、今後の見通しについてのRIAA報告。

③日本の実施状況、今後の活動予定についてのRIAJ報告。

以上



日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成7年5月度(4月21日~5月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル5位			
1.	【es】~Theme of es~	Mr.Children	(TF)
2.	いちばん近くにいてね	大黒摩季	(BG)
3.	KNOCKIN' ON YOUR DOOR	L←R	(PC)
4.	Something there	CHAGE & ASKA	(PC)
5.	いい感じ やな感じ	EAST END×YURI	(SME)
■洋楽シングル5位			
1.	Silent Lover ~Tetsuya Komuro mix	C+C+T.K.	(SME)
2.	ビー・アローン	IVイグザンプル	(MV)
3.	リアリー・ラヴド・ア・ウーマン	ブライアン・アダムス	(PO)
4.	コットン・アイ・ジョー	レッドネックス	(BV)
5.	ハイパー・ビート!	ダルファー	(TO)
■邦楽・洋楽合同アルバム5位			
1.	PIECE OF MY SOUL	WANDS	(BG)
2.	DELICIOUS	Dreams Come True	(SME)
3.	dAnce to positive	trf	(AV)
4.	THE GEISHA GIRLS SHOW ~炎のおっさんアワー	GEISHA GIRLS	(FL)
5.	HITS 2	エリック・クラブトン 他	(EW)
■クラシックアルバム5位			
1.	月の光~シシリエンヌバリエ	吉野直子	(MME)
2.	ザ・ヴァイオリン・プレイヤー	ヴァネッサ・メイ	(TO)
3.	HITS! CLASSICS	オムニバス	(WJ)
4.	赤とんぼ 鮫島有美子 山田耕作をうたう	鮫島有美子	(C)
5.	高畑勲のくらしっく ~ベートーヴェンのスケルツォ	カラヤン指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 他	(PO)
■洋楽アルバム5位			
1.	HITS 2	エリック・クラブトン 他	(EW)
2.	MEGA HITS ~70's/80's ナンバー・ワンヒストリー	ホイットニー・ヒューストン 他	(BV)
3.	クロス・ロード	ボン・ジョヴィ	(MME)
4.	ベイビー・イツ・ユア ビートルズ	ビートルズ	(TO)
5.	タフター・ザン・ラヴ	ダイアナ・キング	(SME)

※日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイチク(TE)/ポリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)/日本フォノグラム(PH)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トラスレコード(TA)/ポリスター(PST)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECAベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルダック(ME)/ハミングバード(HB)/TDKコア(TDK)/メテオレモラス(MR)/AXEC(AX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/バンダイ(BC)/ハイオニアLDC(PH)/MCAビクター(MV)/ロックイットレコード(RO)/エイベックス・ディー・ディー(AV)/ピージ(BJ)/ゾアインレコード(ZA)/BMGルームス(BM)/ビーグラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

5月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

5月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(17作品)

- クワドラプル・プラチナ
クロス・ロード~ベスト・オブ・ボン・ジョヴィ
/ボン・ジョヴィ (MME)
- トリプル・プラチナ
DO THE BEST/森高千里 (EP)
MEGA HITS
/ホイットニー・ヒューストン他 (BV)
- ミリオン
PIECE OF MY SOUL/WANDS (BG)
- プラチナ
Orange Sunshine
/JUDY AND MARY (SME)
HITS 2/エリック・クラブトン他 (EW)
MEGA HITS~70's/80'sナンバー・ワン・ヒストリー/ホイットニー・ヒューストン他 (BV)
ライズ・アンド・シャイン/アスワド (SME)
- ゴールド
THE GEISHA GIRLS SHOW~炎のおっさんアワー/GEISHA GIRLS (FL)
RAINBOW RACE/オリジナル・ラヴ (PC)
THE VERY BEST OF ORIGINAL LOVE/オリジナル・ラヴ (TO)
SIX/NINE/BUCK-TICK (V)
5th WHEEL 2 the COACH
/スチャグラーズ (TO)
KOMEGUNY/米米CLUB (SME)
劣等感/シャ乱Q (BV)
メイド・イン・イングランド
/エルトン・ジョン (MME)
ボース・サイズ/フィル・コリンズ (WJ)

■シングル(30作品)

- クワドラプル・プラチナ
innocent world/Mr.Children (TF)
WOW WAR TONIGHT ~時には起こせよムーヴメント~/H Jungle with t (AV)
- トリプル・プラチナ
【es】~Theme of es~
/Mr.Children (TF)
ら・ら・ら/大黒摩季 (BG)
- ミリオン
OVERNIGHT SENSATION
~時代はあなたに委ねてる~/trf (AV)
- ダブル・プラチナ
サンキュー
/DREAMS COME TRUE (SME)
I LOVE YOU/尾崎 豊 (SME)
- プラチナ
KNOCKIN' ON YOUR DOOR
/L←R (PC)
Something There
/CHAGE & ASKA (PC)
旅人のうた/中島みゆき (PC)
ゆずれない夏/TUBE (SME)
Only You/内田有紀 (K)
コーヒー/奥田民生 (SME)
いちばん近くにいてね/大黒摩季 (BG)
Silent Lover~Tetsuya Komuro mix
/C+C+T.K. (SME)
- ゴールド
太陽のSEASON/安室奈美恵 (TO)
戦場のボーイズ・ライフ/小沢健二 (TO)
JUST MY FRIEND/米米CLUB (SME)
ズルい女/シャ乱Q (BV)
汽笛/五木ひろし (TJC)
タイムマシーン/藤井フミヤ (PC)
BOY'S LIFE/吉川晃司 (TO)
TOMORROW/岡本真夜 (TJC)
Moon Water/工藤静香 (PC)
風になりたい/THE BOOM (SME)
少年/GEISHA GIRLS (FL)
すばらしい日々/ユニコーン (SME)
CHEERS FOR YOU/中山美穂 (K)
愛という名の翼/山根康広 (CR)
ロビンソン/スピッツ (PO)

世界の話題

■1994年世界海賊版レポート

このほど、I F P Iから94年の海賊版売上統計が発表されました。

それによると、62か国の海賊版総売上金額は22億5,000万米ドルで、数量は、カセット9億4,600万巻、CD9,000万枚の計10億410万枚(巻)に達しました。ちなみに、93年の金額は、19億6,000万米ドル。数量は、カセットが、7億700万巻。CDが、7,600万枚でした。

94年の数値にはロシアのカセット2億巻とパキスタンの6,900万巻が加算されていますが、ポーランドと米国の海賊版カセット売上数量に大幅な減少があり、これが93年と94年の大きな相違点となっています。

次に、93年と昨年のデータがある59か国の比較では、海賊版売上は、カセット本数で前年比4%の減少、総売上金額で2%の減少となっています。

1994年の海賊版関係で注目される点は以下のとおりです。

- ・中国：為替相場の上落による売上金額の大幅な減少。
- ・米国：カセット本数の25%減少による売上金額9,500万米ドルへの減少。
- ・ドイツ：アーティストの権利に対する欧州裁判所の適正な判断に基づく売上金額の減少。
- ・ポーランドで：新著作権法の導入により、金額で34%、数量で51

%の大幅な減少。

・ブラジル：通貨の安定による海賊版カセットの販売価格の値上がり(2米ドルから3米ドル)。

・イタリア：売上数量における93年の1,530万枚(巻)から2,100万枚(巻)への増加。

・ロシア及びパキスタン：カセットの平均価格16%下落により過去最低の総売上金額を記録。

尚、ブルガリアでは、94年中に多量な海賊版CDが輸出され、UAEでは、1994年9月の著作権法の制定まで、多量な海賊版カセットが輸出され続けましたが、これらの輸出数量と金額は、この国の数値に含まれていません。

最後に、I F P Iは、海賊版CDは国際的に増加傾向にあり、その製品の最初の製造地域あるいは出荷地域を遥かに越えて広範に影響を与えることに留意する必要があるとコメントしています。

(I F P I機関誌 '95/5)

■中国の使用料改革は国際問題

中国では、同国政府が唯一音楽著作権(録音使用料と演奏料)の管理を認可した中国音楽著作権協会(MCSC)によって、使用料が徴収されるようになりました。

MCSCは、登録料20元(\$2.35)を取め、一定基準を超えた4,000人の作曲家会員を有し、その会員のために使用料を徴収します。

しかし、MCSCは、5人のスタッフと不十分な設備の北京事務所

だけで、全土から徴収しています。

中国著作権法は、国際基準を満たしていますが、重要な「実施規則」は制定には至っていません。問題は、使用料支払いの習慣がなく、権利者が非協力的なことです。

例えば、テレビ・ラジオ局は、テレビ・ラジオ省に演奏使用料を支払い、同省はその総額の一定率をMCSCに渡すものと考えられますが、政府が使用料の標準料率を決定していないので、MCSCは、エンド・ユーザーとの使用料交渉ができません。

中国のレコード会社は、事務処理が単純で、長期間使用料を支払うより有利な著作権の「買取り」を望み、作曲家と実演家の多くも、売れ行きを心配するより、現金収入を望んでいます。

この問題については、政府内にまだ議論があり、重要な問題が未解決のままです。例えば、音楽の商業使用と非商業使用の区別が曖昧なため、MCSCは、会員の使用料を徴収できません。

政府は、WTO加盟を最優先事項としており、一定の範囲内で、法の執行方法を変えることを要求されています。これは、政府が、知的所有権保護の法律の執行が産業・経済発展のために必要であり、それによって同国が知的所有権保護の国際的システムから恩恵を受けることを理解していることによります。

('95/6/10 ビルボード)

会議メモ (主なもの)

(6月1日～6月30日)

- 6・1 二次使用料委員会
- 6・1 法制委員会
- 6・2 経理部会
- 6・5 Q盤プロジェクト

- 6・6 洋楽部会
- 6・8 資材専門部会
- 6・12 廃盤プロジェクト
- 6・15 ニューメディアプロジェクト
- 6・15 技術委員会
- 6・20 宣伝部会
- 6・20 洋楽宣伝専門部会

- 6・21 業務委員会
- 6・21 ビデオプロジェクト
- 6・27 洋盤企画専門部会
- 6・28 情報システム部会
- 6・28 ビデオ部会
- 6・29 ニューメディアプロジェクト
- 6・30 理事会

1995年 5月レコード生産実績

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオディスク

	5月 実績						1995年(1月~5月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
C	邦洋計	17,592	47	152	11,234	26	151	65,412	40	120	40,874	20	114
	邦洋計	157	0	92	90	0	114	1,268	1	123	571	0	104
D	邦洋計	12,640	33	120	20,522	48	116	60,801	37	117	104,121	52	118
	邦洋計	7,390	20	137	10,880	25	130	36,807	22	119	55,192	27	119
小計	邦洋計	20,030	53	126	31,402	73	121	97,608	59	118	159,313	79	118
	邦洋計	30,232	80	137	31,756	74	126	126,213	77	119	144,995	72	117
アナログ	邦洋計	7,547	20	135	10,970	26	130	38,075	23	119	55,762	28	119
	邦洋計	37,779	100	137	42,727	100	127	164,289	100	119	200,758	100	117
合計	邦洋計	13	0	179	14	0	91	86	0	125	139	0	152
	邦洋計	26	0	381	54	0	527	110	0	78	223	0	87
合計	邦洋計	39	0	277	68	0	267	196	0	93	363	0	104
	邦洋計	30,245	80	137	31,770	74	126	126,299	77	119	145,135	72	117
合計	邦洋計	7,573	20	135	11,025	26	130	38,186	23	119	55,986	28	119
	邦洋計	37,818	100	137	42,795	100	127	164,485	100	119	201,120	100	117

表2. オーディオテープ

	5月 実績						1995年(1月~5月) 累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比	
カセット	邦洋計	1,674	99	75	1,404	99	75	9,443	99	83	7,750	98	81
	邦洋計	16	1	57	19	1	52	136	1	85	142	2	75
カートリッジ	邦洋計	1,691	100	75	1,423	100	74	9,579	100	83	7,892	100	81
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	邦洋計	1,674	99	75	1,404	99	75	9,443	99	83	7,750	98	81
	邦洋計	16	1	57	19	1	52	136	1	85	142	2	75
合計	邦洋計	1,691	100	75	1,423	100	74	9,579	100	83	7,892	100	81

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

	5月 実績						1995年(1月~5月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	2,595	98	206	1,183	99	113	14,014	99	214	7,693	98	124
洋盤	44	2	3,417	11	1	1,092	95	1	1,022	124	2	1,246
合計	2,640	100	209	1,194	100	114	14,109	100	215	7,817	100	125

表4. ビデオレコード

	5月 実績						1995年(1月~5月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
ディスク	1,096	40	96	2,734	35	78	5,683	40	81	17,140	35	80
テープ	1,625	60	129	5,178	65	99	8,668	60	132	32,389	65	122
合計	2,721	100	113	7,912	100	91	14,351	100	106	49,529	100	104

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

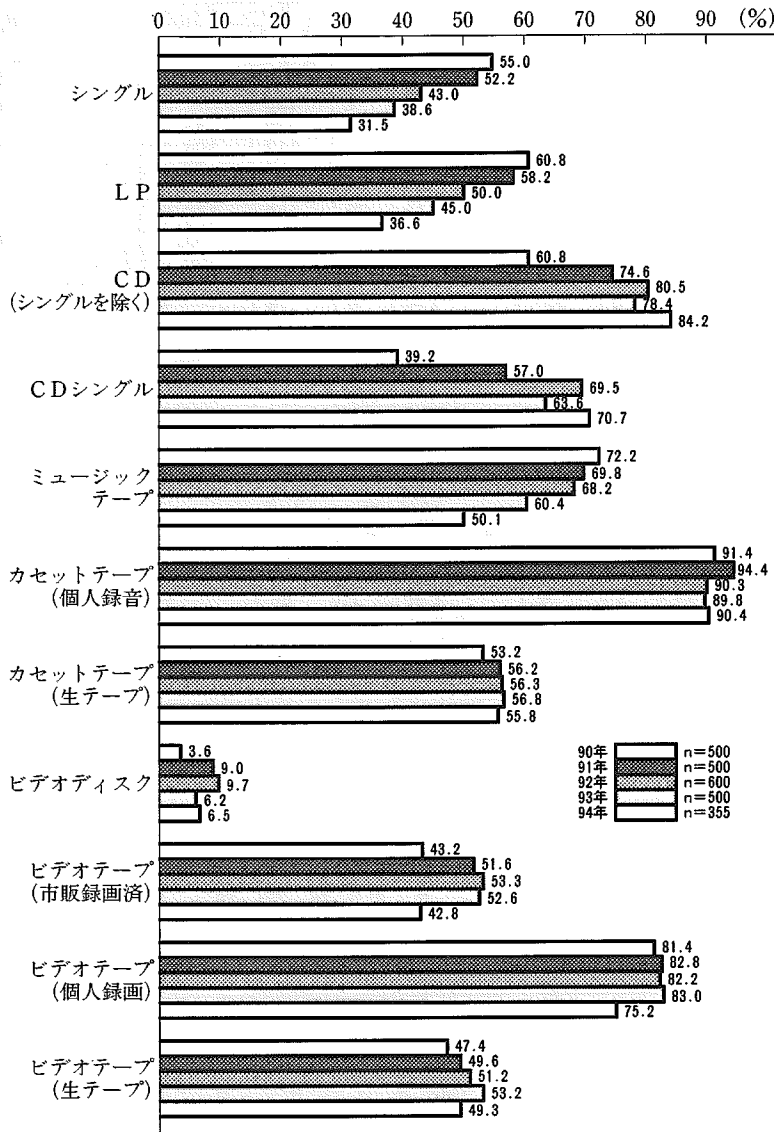
	5月 実績						1995年(1月~5月) 累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	39,509	88	132	44,218	83	125	174,063	86	116	209,013	78	115
複合型CD	2,640	6	209	1,194	2	114	14,109	7	215	7,817	3	125
ビデオ	2,721	6	113	7,912	15	91	14,351	7	106	49,529	19	104
合計	44,870	100	134	53,324	100	118	202,523	100	119	266,359	100	113

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

AVソフトの保有実態

※本号は、5年間のAVソフト保有率の推移を下記の調査資料により紹介します。なお94年度の時系列分析は13歳～39歳までの355人が対象となります。

図 AVソフトの保有率の推移



『94年度AVパッケージメディア消費者実態調査報告書』

調査地域と対象＝首都圏30
 市内に居住する13歳～65歳の
 男女、有効回収数 650。調査
 期間＝1994年11月18日～12月
 2日 (日本レコード協会調査
 統計部会)

AVソフトのうち、何らかの
 ものを所有している人は全体
 の99%です。

〈参考〉

AV機器保有者率と最近1年
 間のAVソフト購入者率

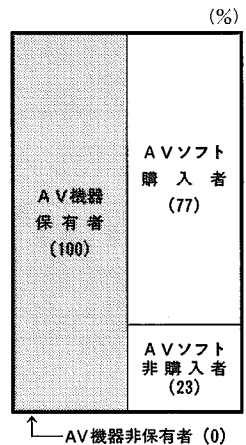


表 性別・年齢別AVソフトの保有者率 (多項回答)

(%)

性別・年齢別	総数	シングル	LP	CD (CDシングルを除く)	CDシングル	ミュージックテープ	カセットテープ・個人録音	カセットテープ・生テープ	ビデオディスク	ビデオテープ・市販の録画済	ビデオテープ・個人録画	ビデオテープ・生テープ
男性 (小計)	187	29.9	35.3	84.0	68.4	45.5	90.9	57.2	8.6	42.8	75.4	51.3
男性 10代	49	6.1	2.0	87.8	85.7	12.2	85.7	38.8	2.0	16.3	59.2	22.4
男性 20代	77	31.2	37.7	90.9	71.4	48.1	92.2	62.3	15.6	54.5	80.5	58.4
男性 30代	61	47.5	59.0	72.1	50.8	68.9	93.4	65.6	4.9	49.2	82.0	65.6
女性 (小計)	168	33.3	38.1	84.5	73.2	55.4	89.9	54.2	4.2	42.9	75.0	47.0
女性 10代	46	17.4	10.9	93.5	91.3	39.1	95.7	37.0	4.3	34.8	76.1	32.6
女性 20代	65	41.5	46.2	89.2	80.0	55.4	92.3	63.1	1.5	53.8	78.5	53.8
女性 30代	57	36.8	50.9	71.9	50.9	68.4	82.5	57.9	7.0	36.8	70.2	50.9